

## 「ストップ原発再稼働！京都集会」のアピール …現状と今後の方向 (案)

### 【前のめりの原発再稼働】

- ▶現在、安倍政権の下で、九州電力の川内原発、関西電力の高浜原発で再稼働の動きが急速になっています。原子力規制委員会の田中俊一委員長は「電力会社から再稼働の申請が出されれば粛々と審査していく」、「地元自治体との調整については規制委員会では関与しない」などと述べています。川内原発再稼働の前提となる審査を事実上、合格させたにも関わらず、「安全とは言えない」と責任を回避しています。
- ▶安倍政権は、規制委員会からお墨付きを得たという姿勢で、結局は誰も責任を取らない原発無責任体制で再稼働が進められています。いったん事故がおこった場合の避難計画も、現実性が欠如しているうえ、避難計画は再稼働の必要条件になっていません。避難計画が必須の発電所など、私たちは必要としていません。

### 【原発輸出の推進】

- ▶インドやトルコなどに原発を輸出しようとする策動も進行しています。自国の核廃棄物を処理するための場所もないのに、売り込んだ原発の放射性廃棄物は、日本が全部引き受けること、日本が輸出した原発が事故をおこした場合、その費用はすべて日本国民の税金から支払うこと、といった約束がされると報道されています。
- ▶現在、国会には、「原子力損害の補完的な補償条約（原発賠償条約）」の承認案と関連法の改正案が提案されようとしています。この条約によれば、原発事故の責任は電力会社などに限られ、メーカーには及ばないとして、日立、東芝、三菱重工といった日本の原子炉メーカーの原発輸出を後押しする効果が期待されています。

### 【政府や地方自治体の役割】

- ▶福島第一原発の事故原因は究明されず、現在も放射能汚染水が漏れ続けています。12万人をこえる避難者は、故郷を追われ、生活再建に苦心しています。福島県では「除染」が進んだとして、汚染地域へ住民を帰らせようとする政策が強要されつつあります。鼻血などの訴えを抑圧し、子どもの健康被害を直視せず、県民にさらなる被曝を甘受させようとしています。事故の影響を小さく見せかけて、「放射能汚染はたいしたことがない」という宣伝が強められています。関東地方の各地にある局所的な汚染地は無視されています。
- ▶国会、政府、地方自治体は、国民の生命と健康を守るべき役割を果たしているのか、疑問をいだかざるを得ません。

### 【脱原発訴訟の前進】

- ▶裁判所では、原発推進勢力に対する闘いが進んでいます。「生業を返せ、地域を返せ！福島原発訴訟」の原告は、4000人規模になりました。福島原発告訴団は、原発事故の責任を追及しています。原子炉メーカーに対する製造物責任も問われています。放射能汚染をさけて福島県や東北・関東各県などから避難した市民による賠償訴訟は、避難の権利、健康被害の救済なども掲げて、京都、大阪、神戸を始め全国で展開されています。9月には脱原発原告団全国連絡会が結成され、京都脱原発原告団を始め、全国から22原告団が参加し、横のつながりを強めています。
- ▶今年5月には、福井地裁（「福井から原発を止める裁判の会」による大飯原発の運転差止訴訟）で大飯原発3、4号機の運転差止を命ずる歴史的な判決が出ました。この福井地裁判決は、憲法上の人格権を最優位において、原子力発電の根源的な危険性を指摘している点で、日本のすべての原発の運転を認めない立場を明示しています。
- ▶京都地裁では、「大飯原発差止訴訟」と「原発賠償 京都訴訟」の二つの原告団・弁護団が、国、関電、東電を相手に闘っています。現在、この二つの訴訟を中心に「京都原発訴訟・支援交流ネットワーク」の結成が検討されています。京都地裁における二つの原発訴訟の裁判支援、原告や会員拡大などを強めましょう。訴訟支援と運動の交流を、ネットワークとして共同で取り組んでいきましょう。
- ▶すべての原発をなくし再稼働を許さないため、京都脱原発弁護団・原告団では1万人の原告をめざし、原発賠償訴訟・京都原告団を支援する会ではさらに会員を増やし、ともに裁判所を大きく包み込んでいきましょう。

### 【脱原発運動のさらなる社会的な広まりを】

- ▶安倍政権や原子カムラなど原子力推進勢力と、脱原発を求める国民多数の声とは、激しくせめぎ合っています。こうした状況を反映し、多くの市民団体、労働団体が脱原発の声をあげています。脱原発や再稼働反対を訴える全国の定例行動は、原発のない沖縄県を除く全国 46 都道府県 279 か所にのぼり、草の根の脱原発運動は、かつてない広まりと継続性をみせています。関電京都支店前のキンカン・アピール行動も、毎週、続いています。
- ▶脱原発の社会的な運動をさらに広め、高めていくことにより、再生可能な自然エネルギーに依拠した、新しい経済と社会を実現しましょう。私たちは、こうした社会実現のために奮闘します。

以上、本日の集会参加者の総意として、決議します。

2014年11月8日

ストップ原発再稼働！京都集会 参加者一同